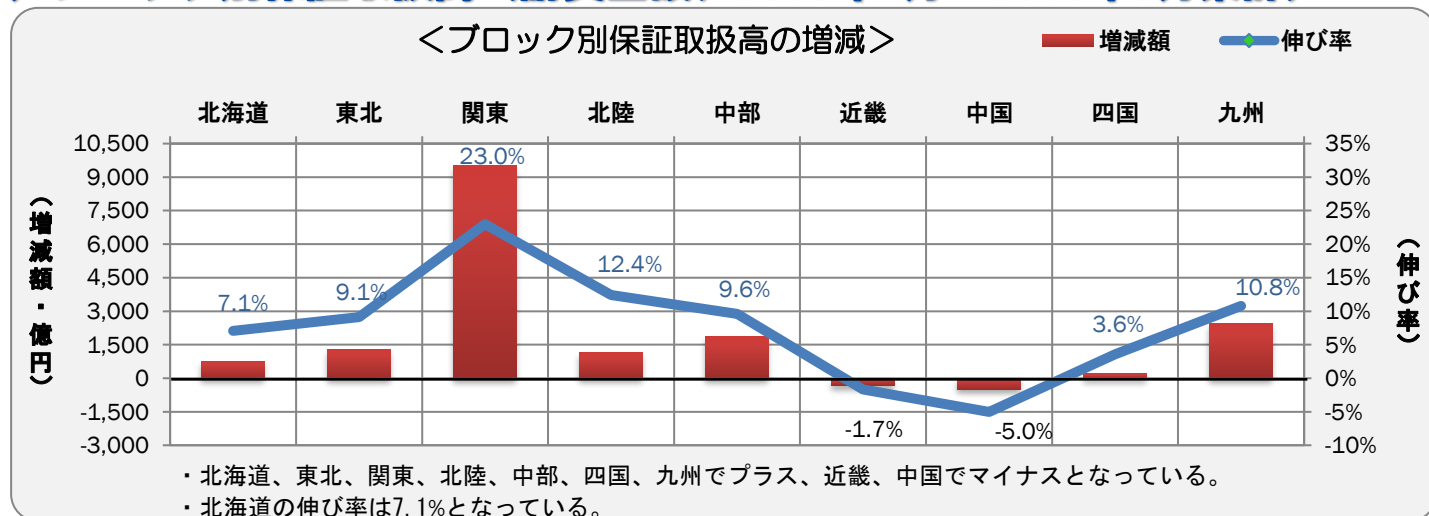




一目でわかる建設業データ

数字でみる公共工事

◇ブロック別保証取扱高（請負金額、2025年4月～2026年3月累計）



○請負金額3月累計額（3保証事業会社調べ）

（金額単位：百万円）

	請 負 金 額	構 成 比	前年同期比較	
			増 減 額	伸 び 率
北 海 道	1,168,175	7.0%	77,055	7.1%
東 北	1,527,388	9.1%	127,833	9.1%
関 東	5,089,186	30.3%	951,029	23.0%
北 陸	1,030,961	6.1%	113,873	12.4%
中 部	2,134,567	12.7%	187,233	9.6%
近 畿	1,788,243	10.7%	-30,747	-1.7%
中 国	917,229	5.5%	-48,568	-5.0%
四 国	609,381	3.6%	21,090	3.6%
九 州	2,519,890	15.0%	245,156	10.8%
全 国	16,785,024	100.0%	1,643,953	10.9%

北海道の建設業景況調査（2025年度第4回・1月～3月）

◇調査の概要

＜調査目的＞

北海道の建設企業の経営動向調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

＜調査対象＞

当社と取引関係にある建設企業の中から、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。

2025年度第4回の回答企業数は231社（調査対象245社、有効回答率94.3%）です。

業 種 別	回答企業数	完工高別	回答企業数
土 木	120	3億円未満	29
建 築	20	10億円未満	63
土木・建築	63	30億円未満	95
設 備	28	30億円以上	44
合 計	231	合 計	231

＜B.S.I.とは＞

この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設企業の意識調査を行ったものです。この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I.（ビジネス・サーベイ・インデックス＝景況判断指数）です。

＜B.S.I.の求め方＞

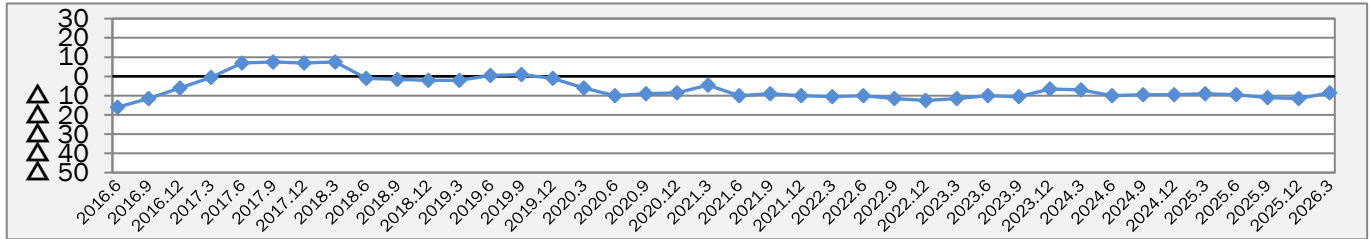
景況調査の集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

$$B.S.I. = ([\text{良い} \cdot \text{やや良い}] \text{と回答した企業割合} - [\text{悪い} \cdot \text{やや悪い}] \text{と回答した企業割合}) \times 1/2$$

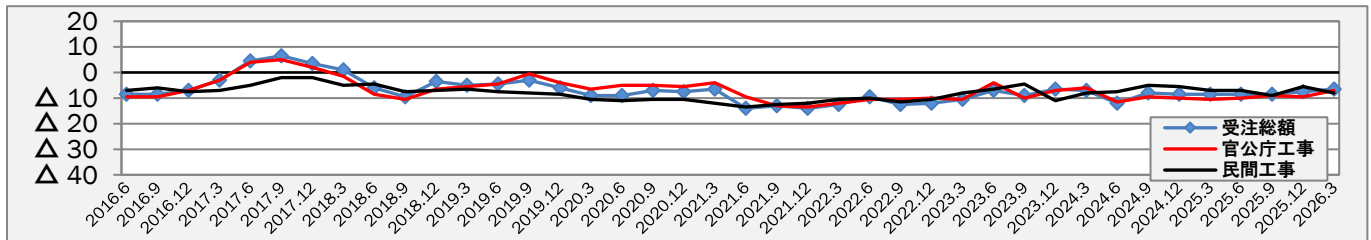


◇B.S.I. (ビジネス・サーバイデックス=景況判断指数) の推移

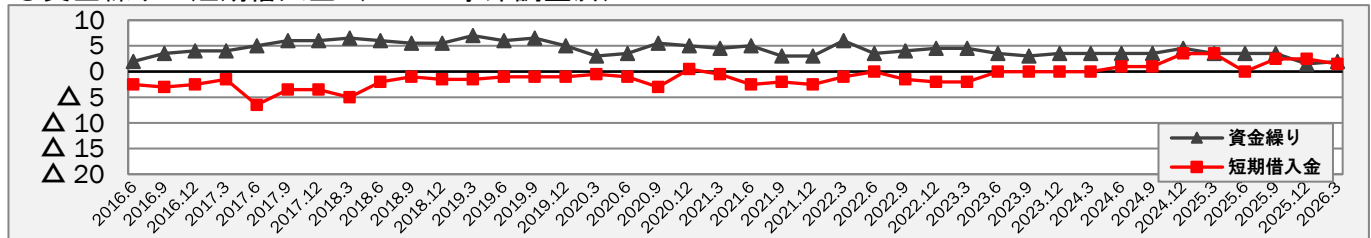
○地元建設業界の景気 (B. S. I. 季節調整済)



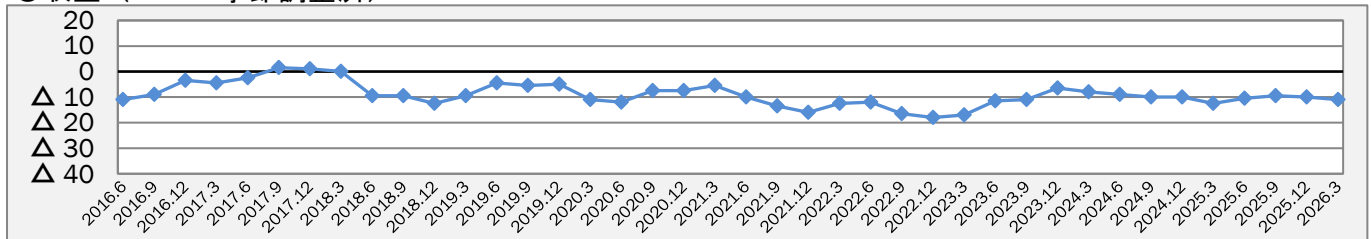
○受注 (B. S. I. 季節調整済)



○資金繰り・短期借入金 (B. S. I. 季節調整済)



○収益 (B. S. I. 季節調整済)



◇建設関連政策の動向

「今後の建設業政策のあり方に関する勉強会」とりまとめ

勉強会とりまとめの中で、今後、建設業が目指す姿として、①「人を大事にする」産業、②真に「経営力」のある産業、③「未来に続く」産業という3つの視点が提示された。

国土交通省 中東情勢への対応

国土交通省は、中東情勢の変化を踏まえた建設工事の円滑な施工のための対応について、4月8、14、30日、5月27日の4回にわたり、建設業団体等に対して依頼・周知した。

全建 3度の緊急要望

全国建設業協会は、4月に金子国土交通相、6月に高市首相、7月に片山財務相に「骨太の方針」策定に向け、資材価格の高騰や人件費の上昇を踏まえた公共事業費の確保等を訴えた。

女性活躍♪けんせつ産業ナビゲーターの任命

国土交通省は、建設産業の魅力とともに、これまで国土交通省や関係団体が作成してきた各種事例集についてSNSで情報発信を行うため、「令和8年度女性活躍♪けんせつ産業ナビゲーター」に、ほくりくアイドル部の皆さんを任命した。

ワールドカップ、日本VSブラジルの試合を中継で見た。佐野選手の美しい先制ゴールにすっかり目が覚める。結果は残念であったが日本代表が極限まで集中してプレーする姿に胸が熱くなった。試合が終わり久々にパンゲリスのアンセムを何度も聴いていた。私にはこの曲がワールドカップの原点だ。日本VSロシア戦の映像も見返した。稲本の先制点やクロスバーに跳ね返される中田のロングシュート。ブラジルとの試合はこの試合を思い起こさせる。ここから日本代表は20年の時を経て何という高みに到達したことか。日韓ワールドカップの優勝国はブラジルであり、そのブラジル相手に「勝てるかもしれない」という希望を持てるまで成長している。ジョホールバルの岡野のゴールから動き出した壮大な「坂の上の雲」の物語を体感させて頂いている。ありがたいことだ。他の試合ではドイツVSパラグアイの試合が印象深い。PKの末パラグアイが勝利したがボール支配率は24%。先制ゴールを固い守備で守り切る。試合後アルファロ監督の「劣勢は新しいことではない」という発言。この冷静な透き通った心境も素晴らしいと思った。ところでやや職業病的な目線で語れば、日本代表メンバーの大半が今や欧州で活躍している。今、1ユーロは大体185円前後。欧州組は報酬において相当の円安メリットを得ているに違いない。円安問題は物価との関係で語られているが、同時に円で業績・報酬を評価されている人々の国際的な価値を急速に下げている。日本の大学教官は欧米の大学教官の3分の1位の報酬であるとも言われる。円安の継続が長期的には様々な分野で人材の国外流出をもたらすことになるだろう。当社は、株主総会の後の取締役会において「北保証経営Vision」と3年間の経営方針「中期経営方針」を策定した。会社創業100年を見据えて当社自体の組織力に加え「個」の力を着実に高めることが出来ればと願っているところである。(H.S)